南アルプス　赤石沢遡行

日時:1987 年 8 月 7 日～8 月 11 日

メンバー:CL 松浦　尚、下西　勲

概要:前年に栗代川遡上明神谷下降の個人山行を行い再度南アをということで計画する。また、近年中に取水口ができ、大水量の下部が楽しめなくなる情報と 赤石岳の語源である赤い石のラジオラリアを一目見ようと夏合宿後半の日程としての計画であった。前半日程であった真砂沢定着中に高岸主将の骨折というアクシデントがあり松浦、下西の二名での山行となった。噂通りの水量と景観そして南アならではの山奥深さを楽しめた沢であった。

記録

8 月 7 日　晴

京都＝金谷町＝畑薙ダム－椹島－赤石沢 T. S

　前夜 23 時 45 分、府大 BOX より RZ250R、VT250R(二輪車)にて出発。Rout-1 を飛ばして 6 時間足らずで金谷町へ。ここより大井川沿いに走る。井川ダムの手前でダートとなりちょっと焦るが 10 時頃に畑薙第 2 ダムへ着く。ここより道路崩壊の為、30 分の山越えでダムサイトへ。予約より 1 本早いリムジンバス(12 時半)で椹島へ着く。時間も早いのでと、ロッジの予約を取り消して赤石沢へ入ったがいきなり濡れるのが嫌で、イワナ淵手前で泊。夜半に雨が降り、慌ててツェルトを被る。

8 月 8 日　曇のち雨

　赤石沢 T. S(8:00)－ニエ淵－北沢出会－T.S

朝一の徒渉は冷たかろうとゆっくり出たがさほどでもなく、やはり南アは暖かいのか。イワナ淵の最初の徒渉でいきなり下西が流される。一段落ちたから岩で狭くなったところで頭を打ちつけながら止まる。冷や汗をかいた。ニエ淵は噂どおり、凄まじい。カツラの岩小舎へたどり着くまでに下西は二回滑落し時計を失くす。(これ以後、時間が判らずラジオに頼る)松浦は眼鏡を犠牲に捧げた。しかし、水量は多くなかったのであろう、巻き無しで突破できた。谷は巨岩の間を段差を落としながら北沢へ。二時間ぐらいで良い T.S を見つけて泊。雨が少し降っていたが火を焚いているうちに止む。用心の為、ツェルトを張ってから寝る。案の定、夜半に雨。ツェルトの中に逃げ込むことになった。

8 月 9 日　晴

T.S－大雪渓沢―T.S

　“門の滝”は左手のルンゼより簡単に越せる岩の中を通る滝で、松浦外側より越そうとして墜落、仲を通って外より荷物を引き上げる。大ゴルジュ帯は右岸にしっかりとした踏跡がある。大雪渓沢出合でラジオを出すと 12 時 15 分、昼寝をして出発。裏赤石沢まで行くつもりだったが、滝沢出合までに絶好の T.S 発見、誘惑に負けて泊とする。雨こそ降らなかったがとても寒い晩であった。

8 月 10 日　晴

T.S－百間洞―百間洞 T.S

　本谷にはもう何もない。裏赤石沢に間違って入ってしまい 40 分ほど進んでから引返したが、滝がポンポン出てきて面白そうだった。百間洞は滝をひとつ巻けば、春の小川となる。道に出れば 40 分程でテント場に着く。昨日を思い厚着をして寝る。

8 月 11 日　晴

T.S－赤石岳－椹島(13:00)－井川ダム

　6 時前に出発。赤石岳は歩いているうちに着く感じ。しかしここからが長かった。替えの靴を持っていない松浦が地下足袋に負けて足の裏がボロボロになり、まともに歩けなくなる。一歩踏み出すたびに痛みが走る。椹島に着いたときは本当に嬉しかった。再びリムジンバスで畑薙ダムへ。シイタケ蕎麦を喰い最後の痛みこらえ、山越えをすれば後はバイクの世界。その日は井川ダムで寝させてもらう。

（記／松浦）